

し
ん
ら
ん
同
人あけまして おめでとう
ございます

NO, 512

1月号

2014年1月1日 誓願寺一同

二〇一四年一月一日発行 郵便番号171-0052
発行所 東京都豊島区南長崎一の三の八 誓願寺
TEL 3950 7828 FAX 3950 6820
E-MAIL SEIGANJI@RESET.JP

住職代務 岡本信之(六十六歳)

昨年は誓願寺が建立され五十年目に当たる節目の年でした。その年に、一昨年坊守を亡くした兄、誓願寺住職が体調を悪くし、本当に残念なことですが、誓願寺の三人の子供のうち誰も後を継がないので、福岡に嫁いだ妹夫婦に誓願寺に入ってもらい、誓願寺の住職代務を勤めさせていただくことになりました。不思議なご縁です。住職代務に至った理由の一つに、誓願寺の土地が借地だったため、色々と不自由さがあり、底地権を地主から買い取るために私が誓願寺の住職代務者になる必要があったわけです。底地権を買い取るため多摩信用金庫から五千万円、大恩寺から一千万円の融資を受けました。返済がもうすでに始まっています。誓願寺にご縁のある皆様にも少しでもお力添いをいただければと念願しております。

父や母が一生懸命築いてきた聞法道場、誓願寺の益々の興隆のため、お念仏の声がひとりでも多くの人に聞こえてくるよう、残された人生、

身体が動く限り精一杯、頑張りたいと思っております。今後とも誓願寺、大恩寺をよろしくお願い申し上げます。

副住職 古賀尚之(六十八歳)

平成二十五年！私にとつて経験したことが無い速さで時間が過ぎ去った一年間でした。

平成二十六年！肩の力を抜いて、

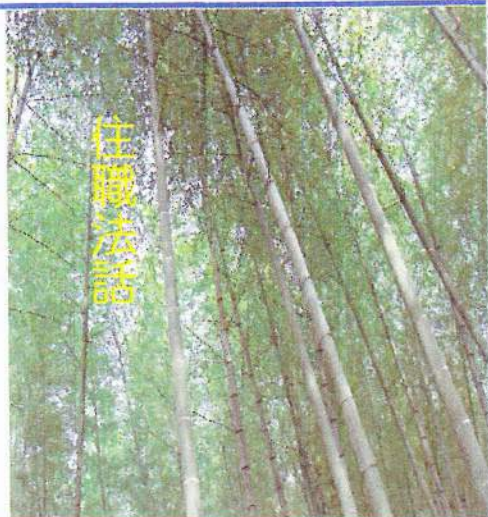
一月一日(水)午後一時半
年頭法座

家族揃ってお参りください。

これからどんな人生を送りたいのか考えたいと思います。ご指導のほどよろしくお願い致します。

坊守 古賀恭子(六十四歳)

九州・福岡に嫁いで三十数年。ご縁に導かれて二十五歳まで過ごした実家誓願寺に主人ともども帰ってまいりました。が、改めてお寺のことを何も知らない自分に戸惑っています。こころの支えは「そのまま来いよ」と学生時代に父から聞いたお説教の言葉です。まだ行動力には自身があります。故英子前坊守に一步でも近づけますようご指導のほどよろしくお願い致します。



住職法話

浄土真宗を開かれた方は、親鸞聖人だと言われておりますが聖人御自身では、浄土真宗という、今日でいう一つの宗派を開いたとは、言っておられません、後の人たちが、浄土真宗の教を説かれたのは親鸞聖人ですから、親鸞聖人が開かれたということになったのであります。

親鸞聖人は「聞かせていただいたことをよろこび、えさせていただいたことをよろこぶ」ものでありとおっしゃっております。

この尊い教は、わたくしが発見したものでなければ、創作したものでもない。聞かせていただいたのである。得させていただいた

のであると言われるのであります。

「弥陀の本願が真実でありますから、釈尊のみ教も真実である。釈尊のみ教が真実であるから、善導さまの仰せも真実である。善導さまの仰せが真実であるから、法然さまの仰せも真実である。さればこの親鸞の申すこともまた、いつわりではない（真実） なのではあるまいか。」と語っておりますことをみて、あきらかであります。

みんな兄弟

「わたくしには一人の弟子もない。みんな兄弟なのだ」と仰言って、私のいただく信心も如来よりいただいたもの、あなたのいただく信心も如来からたまたわったものだ。 「いだけく」ということは、少しもむづかしいことではありません。「南無阿弥陀仏」ということは、私をたのめよ、私にまかせよという、仏さまのお呼び声であります。迷いの闇の中で苦しみ悩んでいる私に、よびかけて下さるお慈悲の声であります。

「闇に迷うあなたを救うことができないなら、決して仏とは成らぬ」と誓われて永い間のお考えと御苦勞の後に、この願いを達成せられたのであります。

仏の真実

迷える私を救いとげてくださる力、このみ仏の真実が認められたものが「南無阿弥陀仏」のみ名であります。かならず救いとつて下さるといって、み仏のまごころをいただいて、お念仏申すのであります。私がお念仏申すということは、「われをたのめよのみ仏のお呼び声」であり、同時に、それは、阿弥陀さまをたのみにする、おまかせするということ、それはそのまま「ありがとうございます」という感謝の言葉ともなるのであります。

やさしい教え

阿弥陀さまのふところにいだから、光の中につつまれてあることを知らされてみれば、たゞありがたうございませより外にはありません。祈りや願いは一切いらないのであります。『どこでも、いつでも光の中につつまれている。いだからいる、ありがたうございます』これが南無阿弥陀仏であります。こんなやさしい尊い教えがどこにありましようか。むづかしいと思うのは、自分自身でむづかしくしているのであります。おれはえらいんだぞ、何でもわかつているのだぞと考えたり、反対に、わたしのようなわるい奴ではとなげいたり、何とかしようときばったりするから、むづかしくなるのであります。

何一つ出来ない

むづかしいことを注文しても、何ひとつできない、わたくしであること、毎日毎日欲望に追われ、はらだち、くやむこの私をすべて御承知であればこそ、「われにまかせよ」と呼んで下さるのであります。「こんなものでは」と頑張るのでなく、「こんなものをよ

うこそ」と、仰せのままに頂くばかりであります。仰せのままをいだゞくとき、阿弥陀さまのお光が、いたりどゞいて下さるから、疑いの闇はいつしか晴れ、おかげさまでと安心させていただき、しあわせものよとよろこばせていただく。

ここに、光の中の日暮しでありますから、いままで気付かなかったことが、知らされてくる、自分の思いがちに気付かせて頂き、どららをむいても御恩ばかり、しあわせものよと、念仏申さずにはおれない。

しかし、この肉体のある限り、欲も起り、腹も立ち、愚痴もこぼれます。こんな思いの起る下からお念仏が出て下さるので、こんなあさましい奴をおめあてとは何と、いっつかお慈悲にかえらせていただくであります。

本願を信じ念仏

浄土真実のみ教は、阿弥陀さまの御本願（わたくしを必ず救うというまごころ）を信じて、お念仏

申す身になると、かならずお浄土に生れ、阿弥陀さまと同じさとり身とならせていただく教えであります。この尊いおころをいただいた上からは、報恩感謝の生活が営まれ、いのちのかぎり精一杯に働き、御恩に報いさせていただくのであります。

釈 尚文 独り言

「会議は踊る」と言つ言葉があります。内容は「会して議せず。議して決せず。決して行はず。行つて責をとらず。」というものです。

誓願寺を更に活性化させるためには、会議が踊らず、結果を出して行くことが大切です。失

敗を恐れて何もしないよりは、失敗から何かを学ぶ位の気持ちで、行動したいものです。

一方、皆様方のお声が届きにくいとも感じています。私達は議論・討論を避ける傾向があるようです。お互いによりよいお寺を目指す気持ちがあれば、意見の違いも気持ちよく乗り越えられると思います。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

早速、一月一日午前〇時より「新企画・除夜の会」を行います。二階入り口の鐘を本堂内に移して敲きながらお話をし一日には午後一時半よりお正月の法座がございますが、この除夜会に一人でも二人でもご参加いただければ幸いです。



新しい納骨壇

核家族となり先祖のお墓を護つていくという意識が薄くなりつつあります。安心して生きていくために準備が必要です。自分の将来を託せる場が必要です。お寺の方で永代に託し供養してもらおう納骨壇を作りました。一基三十万円です。お気軽にご相談ください。



質疑応答

問 主人の遺影が気に入りません。お葬式で使用したものの以外のもを飾っても良いでしょうか。

答え 遺影とは故人の生前のお姿が彷彿と偲ばれる写真が望ましいのであり、そのご遺影が気に入らないということでしたら、お葬式に飾られたということにこだわらずに、どうぞ別の写真をお飾り下さい。

よく紋付や礼装姿のご遺影を見かけることがあります。お若い人には堅苦しく思い馴染めないかもしれません。

また、長い期間、病院に入院されていた人の場合、近影がないということと団体写真の中のお顔を取り出して着せ替え人形のように、礼装に描いたものに顔をつけて遺影としている場合もあります。何かその人の人生が暗示されて寂し

い気がします。どうぞ、あなたのお好きなご主人の写真をご遺影としてお飾り下さい。

それともう一言。気に入った写真があつたら少し大きく伸ばしておいて、身近な人に「もしもの時には、この写真を飾って」と言いおくくらの心掛けが大切だと話しています。

あなたも何か嬉しいことのあつた時とか、ご自分から見えてよい心境の時に撮った写真を大きめに伸ばして額にでも入れておくとういでしょう。

白黒にこだわらず、この頃はカラーの普段着の写真も印象的で良いものです。

いくらご自分の気に入った写真でも何十年も前の若い頃の写真というのはどうかと思います。あなたのお気に入り、あなたらしいお写真をお手元において置くことをお勧めします。

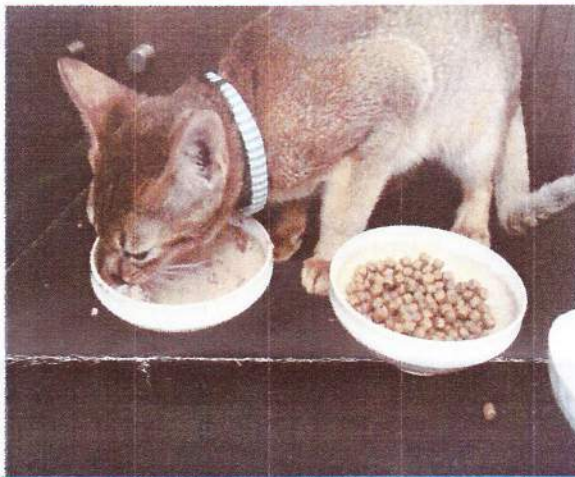
編集後記

一月御法座案内

一日(水) 午後一時半 **年頭法座**
 十二日(日) 午前十時 **聖典講座**
 十九日(日) 十一時 **なかよしクラブ**
 廿一日(火) 十一時 **歎異抄の会**
 廿六日(日) 午前十時 **聖典講座**

◎波乱の一年も終わり、新しい年を迎えた。今年はどうなるのだろうか。私も七十九歳、まさか八十近くまで生きるとは思わなかった。

◎周りの知人もいつの間



にかいなくなつて元気にしているのは少ない。私ももう近いだろうか?とないと今何をすべきか考えざるを得ない。だが心も身体も思うように動かない。

◎愚痴ばかりになつてしまつたが、これが本音である。後が無ければ今どうすべきか。

◎この同人も新年号だから何か新しい企画で進めたいと試行錯誤したが、あまりかわらない。ただどこかを読んでお念仏の足しにしていただいたらうれしい。

◎どうしたらみなさんがお参りしやすいお寺になるか。三十年來のテーマである。結局は他に求める

のではなく、私自身がお念仏を本当に喜ばして頂き、自ずから自然に伝わっていく以外に方法は無い。

◎今年も精一杯努力していこうと思う。もう後が無い。

◎リキもナナも元気、寂しいときには、いつも相手をしてくれる。

管願寺年間行事表

一月一日(水) 午後一時半 **年頭法座**

三月二十三日(日) 午前十時 **彼岸会法要**

四月六日(日) 午前十時 **花まつり**

五月二十五日(日) 午前十時 **永代経法要**

七月十三日(日) 十時 **お盆法要**

九月二十一日(日) 午前十時 **彼岸会法要**

十一月二十三日(日) 午前十時 **報恩講法要**

十一月二十三日(日) 午前十時 **報恩講法要**